

論文審査の結果の要旨

氏名 角陸 順香

本論文は7章から構成されている。

第1章では、序論として本研究の背景となる耐震改修工事の重要性と、意思決定プロセスに焦点をあてることの意義について述べられている。

第2章では、建物の耐震化と耐震補強工事の現状について、とくに過去の地震被害や耐震規定の変遷、建物の耐震化対策の現状や耐震診断方法と耐震改修方法について述べられている。

第3章では、既存建築物の耐震改修における意思決定について、事務所建築、百貨店建築、学校建築をはじめとした公共施設、戸建住宅、用途変更事例、歴史的建造物など、建物の耐震性が問題となる建築の事例をいくつか取り上げ、建物特性によって異なる様々な耐震改修事の意思決定プロセスの特徴と問題点について整理し、これらの意思決定の主体の違いについて述べられている。

第4章では、木造文化財建造物における意思決定プロセスについて述べられている。ここでは実際の検討のプロセスに関わった構造設計者を中心に詳細なヒアリングを行い、木造文化財建造物の耐震化の現状と対策、文化財的価値と意思決定の流れの分析、耐震補強の技術面からの分析、プロセスの進め方についての分析などについて述べられている。そしてこれら分析結果より、各段階における検討事項、参加すべき主体、各主体の役割等について、木造文化財建造物の耐震補強工事をする上で生じうる問題を極力減らす為に、構造設計者が他の主体と各工程において行っていくべき検討項目をプロセスの流れに沿ったチェックリストの提案が行われている。

第5章では、木造戸建住宅における意思決定プロセスについて述べられている。ここでは耐震改修の設計が行われた事例に対する詳細なヒアリング、耐震診断を行った住宅に対するアンケート調査にもとづき、その意思決定プロセスの分析と、各段階における課題を明らかにしている。その中で、戸建住宅という意思決定主体の比較的明確な場合のプロセスの特徴と、関係者との情報交換および検討の流れが明らかにされている。

第6章では、既存建築物における耐震改修の意思決定プロセスについて論じられ、意思決定主体の種類、意思決定主体の優先順位、要求条件の幅や、判断・決定論について述べられている。

第7章ではこれらの成果が整理されている。すなわち、様々な建物の中でも特に意思決定が困難である、木造文化財建造物と木造戸建住宅についての詳細な調査さから得られた意思決定プロ

セスを明らかにし、その複雑なプロセスにおいて重要な要素を明確にしたことと、円滑な意思決定を促すために、何が必要かという視点でこれらの課題を整理したことが述べられている。

なお、本論文の4章と5章は宇野繕晴との共同研究であるが、論文提出者が主体となって分析および検証を行ったもので、論文提出者の寄与が十分であると判断する。また本論文で得られた知見は、我が国の耐震改修に関する問題の解決へ大きく貢献する成果である。したがって、論文提出者に博士（環境学）の学位を授与できると認める。